回答書

本件の質問に対する回答をいたしますので、確認をお願いします。

工事名 又は件名	竜王庁舎 ZEB 化改修工事	
No.	質問	回答
1	A-08・09・10・13　内訳書 P8 アルミガラリについて、平面図及び内訳書は 8 ケ所ですが、立面図では 7 ヶ所となっています。どちらが正しいでしょうか。	平面図及び内訳書のとおり、８か所となります。
2	A-08・09・10・13　内訳書 P8 アルミガラリ 850×1,350 の開口率をご指示下さい。	開口率 50%としてください。
3	外部仕上げ表（既存本館） 本館屋上の既存図が読み取りにくくて防水押えコンクリートの厚さ分からないですが、あと施工アンカーM16 は穿孔深さが 130ｍｍ必要かと思われます。防水層まで届きそうです。	構造上、コンクリート基礎の増し打ちは不可能です。積算上は設計図書の仕様を見込んでください。なお、施工時は事前に既存押えコンクリート厚を確認し、防水層への影響が懸念される場合は、監理者と協議の上、所定の引抜耐力を満たす小径・浅埋めアンカー（本数増）への変更や穿孔部へのエポキシ樹脂・シール材充填等の止水措置を講じて施工してください。
4	外部仕上げ表（既存新館） 新館屋上の防水が、SF-2 工法となっております。あと施工アンカーをこの上に直接打設は不可能と思われます。どうしましょうか。	構造上、コンクリート基礎の増し打ちは不可能です。アンカー打設箇所は穿孔部内およびボルト・座金周囲に変成シリコーン系（またはポリウレタン系）シーリング材を隙間なく重点的に充填して止水処理を行い、既存露出シート（SF-2）の上には防水層保護のため硬質防振ゴム（または保護ゴムシート）を敷き込んだ上で H 鋼架台を設置してください。また、施工後は定期的な点検・メンテナンスにより維持管理を行う方針とします。
5	A-11　内訳書 P7・17 屋外機用架台あと施工アンカー シール防水処理とありますが、漏水すると思われます。アンカ～防水処理の詳細図をご指示下さい。 通常ですと、コンクリートで架台を造り、防水立ち上げて、架台の上に H 鋼を設置する・・・かと思われますが、内訳書にはありません。どうしましょうか。	構造上、コンクリート架台用の増し打ちは不可能です。詳細図の追加提示は行いませんが、内訳書のとおり、あと施工アンカー穿孔部およびボルト・座金周囲に変成シリコーン系等のシーリング材を隙間なく重点的に充填する防水処理を見込んでください。

No.	質問	回答
6	A-07・08・09・10 空調機ボックスについて、ボックスカバーの詳細図及び吹き出し口・給気口の詳細をご指示下さい。	平面図記載の断面図及び内訳書の形状・寸法を参照の上、詳細は現地確認としてください。なお、ボックスカバーはスチールパネル製とし、吹出し口・給気口は内訳書及び設備図記載の仕様としてください。
7	A-02　内訳書 P12・18 A-02 図　固定家具等の移動-行う（図示）とあり、内訳書には、既存什器備品移動復旧 1.0 式とあります。移動・復旧する什器の部屋名・什器名称・寸法・数量をご指示下さい。	仮設図の設備改修に伴う足場や養生範囲を確認してください。また、改修を行う全室の足場等に係る什器が対象です。なお、動かした什器は元の位置に戻してください。
8	A-14・15・16・17　特記仕様書 施工ゾーンの作業時間について、土日休館日は 9 時～17 時、平日夜間は 20 時～4 時となってますが、平日昼間作業は完全不可ですか、可能な部屋があればご指示下さい。	会議等で利用される部屋（大会議室や相談室など）は平日昼間での施工が可能であるため、協議の上、対応するものとします。
9	A-14・15・16・17 改修期間は 7 月～9 月中旬・12 月～2 月は避けるとありますが、この期間は完全休工ですか。作業可能な部屋があれば、部屋名・作業内容をご指示下さい。	図面内の改修期間は機械設備（空調）を使用しているため、改修が困難であると想定しているものです。 その他の工種については基本的に施工ができますので休工とはしません。 また、施工の考え方については質問 8 の回答を参照してください。
10	上記質疑 8・9 の内容について、現時点で平日作業が可能な部屋・部署等があり、可能な部屋・日数等が確定してない場合、本工事は土日休館日及び平日夜間限定。7 月～9 月中旬・12 月～2 月休工にての積算にしますがよろしいでしょうか。	質問 8・9 の回答を参考に積算をお願いします。
11	A-05・14 市役所敷地内に仮設事務所（15 坪×２階程度）・仮設トイレ（３台程度）・仮設材・資材・残材仮置場（100 ㎡程度）を設置することは可能ですか。	設置可能ですが、状況により屋外敷地の空きスペースに点在して設置する可能性もあるため、詳細は協議とします。
12	E-26～32　内訳書 33・47～48 既設分電盤改修とありますが、増設機器（ＣＴ）の取り付けスペースが有るという事でよろしいでしょうか	お見込みのとおりです。

No.	質問	回答
13	M-07　M-10 空調屋外機架台H鋼について、本館は建築工事、新館は本工事とあります。また、機械設備・建築の内訳書共架台の記載ないように思われます。どうしましょうか。	建築工事において、空調屋外機架台H鋼を見込んでください。
14	M-10 空調屋外機架台H鋼200×200×8×12架台及び基礎打増しとありますが、詳細図をご指示下さい。	質問5の回答のとおり、基礎の増し打ちは行わず、H鋼（200×200×8×12）を直接設置してアンカー固定するため、調査の上、施工図対応とします。
15	M-07　M-10 空調屋外機架台のH鋼について200×200×8×12とありますが、屋外機の設置重量が本館2階屋上3,500Kg、本管PH階4,500Kg、新館PH階3,500Kgとなり、全ての屋外機が防震架台を含む重量となっておりますので、H鋼平架台の製作設置が必要になりますが、ご指示願います。	H鋼の平架台（組架台）の製作は行いません。H鋼（200×200×8×12）の上に硬質の及びレベル調整用パッキン（ライナー）等を設置して水平を調整してください。
16	A-07　A-08　A-09　A-10 空調機ﾎﾞｯｸｽ内断面図に基づく設置について別紙①②図の納まりにしないと、空調機の維持管理が出来ません。 その場合、図の様な納まりになりますがよろしいでしょうか。メンテ等のため脱着が必要になるかと思われますがどうでしょうか。	お見込みのとおりです。維持管理及びメンテナンス時に点検・脱着が可能な納まり（別紙提案相当）としてください。詳細は施工時に監理者と協議の上、決定します。
17	A-07　A-08　A-09　A-10 空調ﾎﾞｯｸｽ内空調機下に架台設置とありますが、建築断面では1階のみ架台取付可能で、他はスラブ設置となっております。 1階のみ架台製作設置という理解でよろしいでしょうか。2～4階は天井内配管でしょうか。	お見込みのとおりです。建築断面図（A-07～10）のとおり、1階のみ架台製作設置（架台内配管）とし、2～4階はスラブ設置（下階天井内配管）としてください。
18	M-05 空調機ﾎﾞｯｸｽ内の空調機用冷媒配管は、1階から4階まで天井裏配管とありますが、1階はA-07の指示通り架台内配管でよろしいでしょうか。	一部天井内配管です。

No.	質問	回答
19	M-03 新館屋上設置屋外機についてL-A730(PUHY-RP730DMG9)は、室内機がL-A450F(PFFY-P450DMG9) となっていますので、屋外機の型番はL-A450(PUHY-RP450DMG9) ではないでしょうか。	新館屋上設置屋外機について、設計図書に記載した型番 （L-A730(PUHY-RP730DMG9)）により積算をお願いします。
20	M-09 ホール内前後空調機械室1・2について、室内機（K,L-A450×2台）の寸法は一体型でW1300×D700×H1900ですが、機械室への搬入は可能でしょうか。分解搬入は不可となっております。 また重量250ｋｇとなりますが、その点につきましても搬入可能かご指示願います。（ヨコにして搬入は不可。）既存エレベータで搬入でしょうか。	設計段階において、分解可能であると確認しているため、機械室へは分解搬入による対応を想定しています。 なお、搬入について、必要に応じてエレベーターの利用は可能ですが、来庁者も利用するため、協議を要するものとします。
21	M-11　M-12　M-13　M-14 全熱交換換気扇（床置ビルトイン形ロスナイ）について HEX-101、201、301、401については寸法が W2000×D1800×H2400のため、地下機械室及び2階、3階、4階機械室には搬入できません。 分解搬入はメーカー保証対象外となりますので、保証書の発行はできなくなりますが、ご指示願います。	設計段階におけるメーカーへの確認で、分解搬入でも保証対象となることを確認しているため、分解搬入による対応を想定しています。